

科目名	伝熱工学	科目コード	11520
-----	------	-------	-------

学科名・学年	機械工学科・5年（プログラム2年）
担当教員	河田 剛毅（機械工学科）
単位数・区分	1単位・選択
開講時期・時間数	後期，30時間【内訳：講義28，演習0，実験0，その他2】
教科書	田坂英紀，伝熱工学（第2版），森北出版
補助教材	
参考書	

【A．科目の概要と関連性】

基本的な伝熱形態について基礎理論を学び、伝熱現象の物理的解釈ならびに具体的な伝熱量の計算ができるようにする。

関連する科目：熱力学，熱力学演習，流体力学，環境エネルギー工学

【B．到達目標と学習・教育目標との対応】

この科目は長岡高専の学習・教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を以下の表に示す。

到達目標	評価の重み	学習・教育目標との関連
熱伝導の概念、熱移動量を表す法則、熱伝導方程式について理解する	25%	D1
熱伝達の概念、関係する無次元数の物理的意味を理解する	25%	D1
簡単な伝熱場における具体的な伝熱量の計算方法を理解する	35%	D1
熱放射の概念と特徴を理解する	15%	D1

【C．履修上の注意】

熱力学の講義で学んだ基礎事項についてきちんと復習しておくこと

【D．評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

定期試験（70%）【内訳：後期中間30，後期末40】

その他の試験：小テスト2回（30%）

レポート（0%）

その他（0%）

【E . 授業計画・内容】

後期

週	内容	備考
1	授業の概要説明 伝熱工学の意義と熱移動の3形態の概略	
2	定常熱伝導(1) : フーリエの法則、熱伝導率の意味と性質	
3	定常熱伝導(2) : 熱伝導方程式	
4	定常熱伝導(3) : 平面壁における熱伝導の計算式	
5	定常熱伝導(4) : 円管壁における熱伝導の計算式	
6	非定常熱伝導の解法、授業前半の主要事項のまとめ	
7	後期中間試験	試験時間 : 50 分
8	試験の返却・解説、熱伝達(1) : 熱伝達概念	
9	熱伝達(2) : 熱伝達率の意味と性質、境界層の性質	
10	熱伝達(3) : 対流熱伝達に関わる無次元量の意味	
11	熱伝達(4) : 熱伝達の具体的計算(1)	
12	熱伝達(5) : 熱伝達の具体的計算(2)	
13	熱放射(1) : 放射伝熱概念、熱放射の物理的性質(1)	
14	熱放射(2) : 熱放射の物理的性質(2)、授業後半の主要事項のまとめ	
-	後期末試験	試験時間 : 50 分
15	試験解説と発展授業	